

保険薬局における便秘症状への積極介入と影響因子調査

総合メディカル(株) そうごう薬局豊玉店¹⁾、芦辺店²⁾、壱岐店³⁾、いづはら東里店⁴⁾
郷ノ浦店⁵⁾田渕店⁶⁾、対馬広域センター店⁷⁾、対馬中央店⁸⁾
○菅原彬光¹⁾、その他^{2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)}

【目的】保険薬局の窓口において、便秘症状に悩む患者の声は多く聞かれ、その原因や改善のための方法は様々である。今回、薬剤師が便秘症状に対して積極的に介入することや、症状に影響を与える因子を知ることによって、症状改善のためのさらなる貢献ができるのではないかと考え取り組みを行った。

【方法】壱岐・対馬地区のそうごう薬局全8店舗に来局された患者に便秘症状チェックシートを用い確認を行った。チェックシートは「慢性便秘症診療ガイドライン 2017」を参考に作成し、症状が2項目以上該当する場合を便秘の疑いが強いとし、該当者に生活指導、OTC紹介、医師への情報提供等を行った。再来局時にチェックシートにより改善度合いを確認した。さらに、壱岐・対馬地区の1店舗において、生活習慣や薬剤数など便秘症状に影響を与える因子に関するアンケートを実施し、その結果を分析した。分析には χ^2 乗検定を用いた。

【結果】チェックシート総数369名。便秘の疑いが強い56名に生活指導を行うとともに、疑義照会1件、医師への情報提供2件、OTC販売2件を実施した。再来局時、確認ができたのは34名であった。その中で、症状改善11名、維持21名、悪化したのは2名であった。影響因子に関するアンケート総数は270名。便秘の疑いが強い患者81名の生活習慣等を分析したところ、睡眠時間と薬剤数に便秘との関連がみられた。また、各便秘症状と生活習慣・薬剤数を分析したところ、薬剤数は残便感や排便回数などの便秘症状と関連がみられた。睡眠時間は残便感との関連がみられた。

【考察】薬剤師が積極的に聞き取りを行い、生活指導などの介入を行うことは、症状の改善に一定の効果を示すことがわかった。また、薬剤数や睡眠時間との関連が示されたことから、これらの情報を活用することでより効果的な指導・アドバイスが行えると考えられる。